

平成14年10月15日  
国土交通省鉄道局

## 平成14年度都市再生プロジェクト事業推進 費に向けた鉄道関係公共事業の事業評価結果 及び概要について

公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の一層の向上を図るため、新規採択時評価を実施していますが、平成14年度都市再生プロジェクト事業推進費において、新たに事業費を予算化する事業について、費用対効果分析を含め総合的な評価を行い、その評価結果及び採択箇所等を、評価手法等とともに公表しますのでお知らせします。

### 新規箇所数総括表

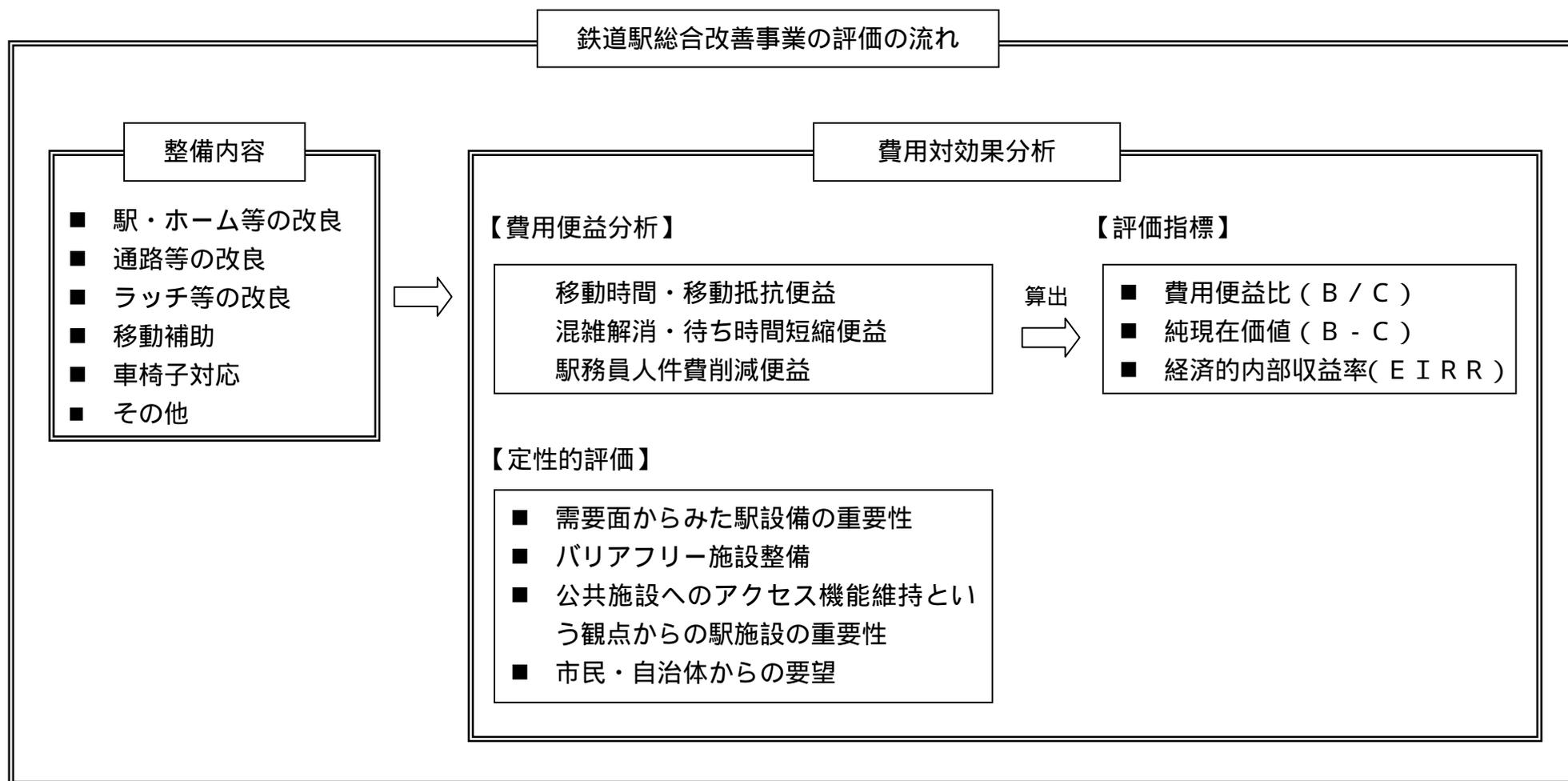
事業	新規箇所数
補助事業	1
都市・幹線鉄道整備事業	1
合計	1

### 【問い合わせ先】

鉄道局施設課	課長補佐 吉見（内線40822） 直通03-5253-8554
鉄道企画室	課長補佐 黒須（内線40172） 直通03-5253-8526

## 鉄道駅総合改善事業の評価手法について

鉄道駅総合改善事業については、「鉄道プロジェクトの費用対効果分析マニュアル99補足版」に基づき、以下のような評価を行っているところである。



## 新規事業採択時評価結果一覧表様式

### 【都市・幹線鉄道整備事業（鉄道駅総合改善事業）】

事業名 事業主体	総事業費 (億円)	便益 ( B )		費用 ( C ) (億円)	B / C	その他の指標による評価
		総便益 (億円)	便益の主な根拠			
日暮里駅総合改善事業 第三セクター	226	300	平成22年度 京成日暮里駅予想乗降人員 109,000人/日	190	1.58	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新交通日暮里・舎人線、駅周辺の再開発事業との一体的な整備による、広域交通結節点としての機能強化、地域の活性化。</li> <li>・成田新高速鉄道アクセスルートの都心側の拠点駅としてのイメージアップ</li> <li>・バリアフリー施設整備による高齢者、身体障害者等の移動抵抗の低減</li> </ul>

## 新規事業採択時評価の結果

### 【鉄道駅総合改善事業】

事業名	日暮里駅総合改善事業						
所在地	東京都荒川区			事業主体	第三セクター		
事業概要	京成日暮里駅の三層化（上下線の別ホーム化）、スカイライナー専用ホームの新設、JR日暮里駅コンコース拡幅及びバリアフリー化等、日暮里駅の改良を周辺の再開発事業等と一体的に行う。						
事業期間	平成14～21年度			総事業費	226億円		
目的・必要性	日暮里駅は、プラットホームやコンコースが狭隘で、また、バリアフリー化の遅れにより、利用者に不便を強いている状況にある。今後、駅周辺の再開発事業や新交通日暮里・舎人線及び成田新高速鉄道の整備によって、駅利用者が増加する見込みであり、混雑緩和や乗換負担の軽減を図るとともに空港アクセスを改善するために、周辺の再開発事業等と一体的に日暮里駅の改良を行うものである。						
評価の基となる 需要予測	平成22年度の京成電鉄日暮里駅予測乗降人員 109,000人/日						
費用対効果分析	貨幣換算した主要な費用			建設費			
	貨幣換算した主要な便益			時間短縮便益、移動抵抗低減便益 等			
	費用の生じる時期			平成14年度			
	効果の生じる時期			平成22年度			
	社会的割引率		4%	現在価値化の基準年度		平成14年度	
	総費用		190億円(190億円)		総便益		300億円(350億円)
	B / C	1.58 (1.87)	B - C	110億円 (160億円)	E I R R	7.2% (7.7%)	
定量的・定性的に 考慮した効果・費用			交通結節点としての機能強化、地域の活性化、拠点駅としてのイメージアップ、高齢者・身体障害者等の移動抵抗の軽減				
地元等との調整状況 地域開発戦略との整合性等			国・地方・鉄軌道事業者による日暮里駅総合改善協議会において、駅の改善計画及び周辺のまちづくりに関する一体的な開発について調整。				
事業実施によるメリット ・デメリット			ラッシュ時の混雑緩和、停車時間短縮及びバリアフリー化による乗換時の負担軽減、空港アクセスの改善				
日程・手続			平成14年度事業着手、平成21年度完成予定				
関係者の意見等			地元自治体から強い要望がある。				
備考			平成13年8月に決定した都市再生プロジェクト（第2次決定）である、成田空港への新たな鉄道アクセスルートの都心側拠点駅である。				

：（ ）は、50年で計算